

# 高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20  
高知県地域福祉部障害保健支援課内  
高知県精神保健福祉協会  
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)  
FAX：088(823)9260  
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net  
発行人 明神 和弘 編集人 谷 晃

## 第271号

## 令和元年度高知県精神保健福祉協会活動計画

会長 明神 和弘



平成の時代が終わり年号も令和と改まり新しい時代が始まりました。昭和、平成と私達の生活は経済的には多少なりとも裕福になり便利にもなりましたが、その一方で何か大きなものを失ってきたように思います。裕福で便利な生活でありながらどこか物足りない、幸福感のない、何か不安定な思いを抱えているのは私だけではないように思います。理解できない大きな事件が続けて起こっているのも、そうした不安定な思いに関係しているのかもしれませんが。令和という時代が経済的な豊かさや生活の利便性を追求するだけではなく、心豊かに生きられる時代になることを願っています。

令和元年度の高知県精神保健福祉協会の活動計画をご報告いたします。広報委員会では例年通り「高知精神保健」を年3回発行。ホームページも最近ではアクセス数が増加し、SNSとの連動を検討します。

大会実行委員会では再び「認知症」を題材としました。今回は認知症にどうやって取り組んでいくのかをテーマとし「認知症！ちからを合わせて力を抜いて」～困った人は放っておけない！高知家の底力～をタイトルにしています。講師は、北海道の砂川市立病院副院長・認知症疾患医療センター長の内海久美子先生。その後シンポジウム「高知の底力」を行います。日程は令和元年10月9日(水)、県民文化ホールが工事中のため高知市文化プラザかる

ぽーとで開催します。

総合福祉委員会では卓球大会を令和元年6月18日(火)、バリアフリーフェスティバルを9月25日(水)に高知県民体育館にて行います。バリアフリーフェスティバルは老若男女問わず参加できるとのことで、各病院や各施設から多くの参加希望があり人気があるようです。第23回文化交流会は12月4日(水)に高知県立美術館ホールにて行います。個人で参加のできるのど自慢大会も加わったためか、こちらも参加者が多くなっています。

調査研究委員会では、高知大学医学部神経精神科学教室講師 上村直人先生が中心となり「高知県の教育現場におけるネット依存に関する教職員意識調査」をテーマに現在調査を行っています。

研修委員会では「第22回精神保健福祉従事者リフレッシュ研修」を9月から5回に分けて行います。

基金管理運営委員会では、障害福祉サービス事業所等に貸付事業を行っておりますが、現在は利用が少なくなっており、今後利用について考えていきたいと思っております。

最後にあり方委員会では、この先、精神保健福祉協会はどうあるべきかを模索していますが、予算なども厳しくこれといった方向性がまだ見出せていないようです。何とか県民の皆様のお役に立てるような協会作りを行っていきたく考えていますので、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

### 目次

令和元年度活動計画	1
高知大学医学部 児童青年期医学講座開設記念シンポジウム	2
令和元年度高知県精神保健福祉関係機関連絡会	2

令和元年度高知県精神障害者家族会連合会大会	4
精神保健福祉卓球大会の結果について	4

高知大学医学部 児童青年期医学講座  
開設記念シンポジウム

「高知県における子ども  
の心の地域医療連携」

日時:令和元年5月25日(土) 18時～20時  
場所:ちより街テラス ちよテラホール  
(高知市知寄町)

高知県からの寄附により2019年4月、高知大学医学部に児童青年期精神医学講座設置された。高知県における発達障害の診療・養成・研究のための中核機関の設立に向け、高知大学医学部附属病院精神科をはじめとする基幹施設間の連携・養成体制の活性化や、かかりつけ医と連携した地域支援体制の整備・支援者養成、医工連携を活用した地域包括的な支援体制の整備及び研究の活性化、平時の支援体制整備に基づく災害時の子どものこころケア体制の確立を図るとともに、高知県の地域精神医療を担う精神科医師の確保及び育成に取り組む。(同講座ホームページより)

開設記念シンポジウムには医療機関・関係機関・一般から206名が参加され、会場がほぼ満席となる盛況だった。

特別講演「高知大学医学部附属病院における子どもの心の診療体制」では、高知大学医学部児童青年期精神医学 特任教授 高橋 秀俊氏から、高知大学医学部に寄付講座として児童青年期精神医学講座が開設された意義、高知大学医学部附属病院「子どものこころ診療部」の診療体制についての説明が行われた。



(QRコード)

url : [http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/guidance/medical/m\\_cmhdu.html](http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/guidance/medical/m_cmhdu.html)

高橋特任教授は子どものこころの診療部での発達障害の治療だけでなく、地域での支援のあり方と



開設記念シンポジウム

高橋秀俊特任教授



して海外の商業施設での「クワイエットアワー」(一定時間、照明・音量を落とすなどして静謐な空間を現出する)なども紹介した。また発達障害的な特性意義に、併存障害のため社会生活・家庭生活に深刻な支障をきたすケースも多く、他領域の関りを要することもある。家族や地域社会とのつながりが大切で、本人や家族のニーズに応じて、医療・福祉・教育など幅広く地域のいろいろな領域で切れ目のない支援を継続する体制整備が必要、とまとめ、今後も関係機関と相談しながら適宜体制を整備していく、と抱負を述べた。

令和元年度

高知県精神保健福祉  
関係機関連絡会

日時:令和元年7月3日(水)  
場所:高知城ホール

1. 高知いのちの電話協会

<http://k-inochi.sakura.ne.jp/>

- ・相談員が今年度6名増え、第19期養成講座受講生も11名あり次年度から相談員となる。県民に活動を知ってもらい、相談員を広く募りたい。
- ・今年11月17日に養成講座説明会を牧野植物園で開催予定。講師は三味線プレイヤー、史佳 Fumiyoshi氏。

## 2. 高知県社会福祉協議会

<http://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

- ・福祉専門職等が災害時要配慮者への支援を行う「災害福祉広域支援ネットワーク」など大規模災害発生時における体制づくりの推進。
- ・日常生活自立支援事業、未就労未就学の若者への自立支援、矯正施設退所者への福祉的支援、高知県立障害者スポーツセンターの運営など在宅の人への支援を行っている。

## 3. 高知県精神障害者家族会連合会

- ・県内5在住する同居家族へのインタビューから、親は自分の死後、当事者が一人になっても地域で生活するためには日常の見守り支援が必要で、同じ病気を体験しているピアサポーターに期待を寄せ、両者がふれあう家庭訪問や交流の場を作ることを希望している。

## 4. 高知県精神障害者地域生活支援施設連絡会

<https://www46.atwiki.jp/kochi-shstsren/>

- ・サービス報酬の改定で、障害者の労働時間や工賃のアウトカムを就労支援事業所の報酬に反映させる仕組みが導入され、利用者のニーズに応えながら多様に就労を支援する福祉サービスの在り様に影響が出ている。

## 5. 高知県精神保健福祉士協会

<http://www.kochi-psw.com/>

- ・社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士の3団体が主催する令和元年度ソーシャルワーカーデイ関連事業・虐待対応力向上研修を7月20日(土)午後、高知県人権啓発センター行う。

## 6. 高知県断酒連合会

<https://kochi-danshukai.jimdo.com/>

- ・高知県内4団体(高知県断酒新生会、高知県断酒友の会、南四国断酒会、幡多断酒会)の連合組織で相互の融和を図る。理事の武内晴夫氏が現在

全国組織、四国ブロックの役員を担当。

## 7. 高知県臨床心理士会

- ・「臨床心理士」と「公認心理師」が両立することとなり、会の名称変更は見送られている。
- ・本年9月15日16日に開催される、日本ピア・サポート学会第18回総会・研究大会(高知大会)「ピア・サポートの原点を求めて—よさこいスピリットを生かして—」を後援する。大会長は池雅之氏。

## 8. 日本精神科看護協会高知支部

<http://www.jpna.jp/>

- ・「こころの日事業」として、8月24日(土)午後高知市文化プラザかるぽーとで、講演「人生100年時代を生きるこころの健康～知っておきたい認知症の治療とケア」(講師:高知大学神経精神科 数井裕光教授)を開催する。

## 9. 高知県精神保健福祉ボランティア連絡協議会

- ・ほっとはあと等ボランティアグループ3団体と個人で組織され、平成29年4月から活動。
- ・本年10月18日(金)10時から、高知男女共同参画センター ソーレで「心のびのび気分ほっこり交流会」、同10月26日(土)松山市にぎたつ会館で「精神保健福祉ボランティア全国のつどいinえひめ」に参加。



高知県精神保健福祉関係機関連絡会

**令和元年度高知県精神障害者家族会連合会大会**  
**「いま最も必要なことは？」**  
**—つながる家族会をめざして—**

令和元年 5月24日(金) 高知市立自由民権記念館

5月24日、高知県精神障害者家族会連合会大会が自由民権記念館で行われた。家族会は全国的にも高齢化・減少化している中、「今最も必要なことは？」—つながる家族会をめざして—をテーマに、来賓の高知県地域福祉部部長・四国管財代表取締役含め42名の参加者があった。

研修会では、副会長松尾美玲氏が高知県立大学大学院で行った研究『精神障害者家族の願い』—親なき後を見据えて—の報告後、意見交換を行った。内容は、高知県下5市町村在住の当事者(20~60歳代)および生計を一にしている家族(50~90歳代の母親)へのヒアリング調査を9名に行ったもので、そこから親なき後の心配に対しての必要な支援が導き出されたとのことだった。親が当事者に最も願うことは、いろいろな人とつながってほしいという思いであり、3つのキーワード(見守り支援・居場所づくり・ピアサポーターの重要性)が示された。最後に、当事者の自立を社会全体で支えていく意識変容とシステム作りが必要だとの県への施策と家族会への提案で終了した。



**令和元年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について**

令和元年6月18日(火)に県民体育館において令和元年度精神保健福祉卓球大会が開催されました。

団体戦には、9施設12チームの皆さんが、個人戦には、男子の部に21名、女子の部に17名が参加されました。

\*\*\*\*\* 結果報告 \*\*\*\*\*

●**団体戦**

- 優勝: 土佐病院Aチーム
- 準優勝: 高知ハーモニーホスピタル
- 第三位: 海辺の杜ホスピタルBチーム
- 第四位: 細木病院こころのセンターBチーム

●**個人戦**

- 男子の部 優勝: 施設連合の選手  
準優勝: 愛幸病院の選手
- 女子の部 優勝: 土佐病院の選手  
準優勝: 施設連合の選手




選手の皆さん、応援の皆さん、お疲れさまでした。



精神科医療の  
真のパートナーを  
目指して

**吉富薬品株式会社**  
 大阪市中央区北浜 2-6-18  
<http://www.yoshitomi.jp/>

命のために、  
できること  
すべてを。


**大日本住友製薬**  
 Innovation today, healthier tomorrows